

414  
A 798  
10

極秘

第一種

參謀部權第九二號ノ一三

明治三十一年八月八日(馬尼刺)發

陸軍砲兵大尉時澤右一第百四十報告



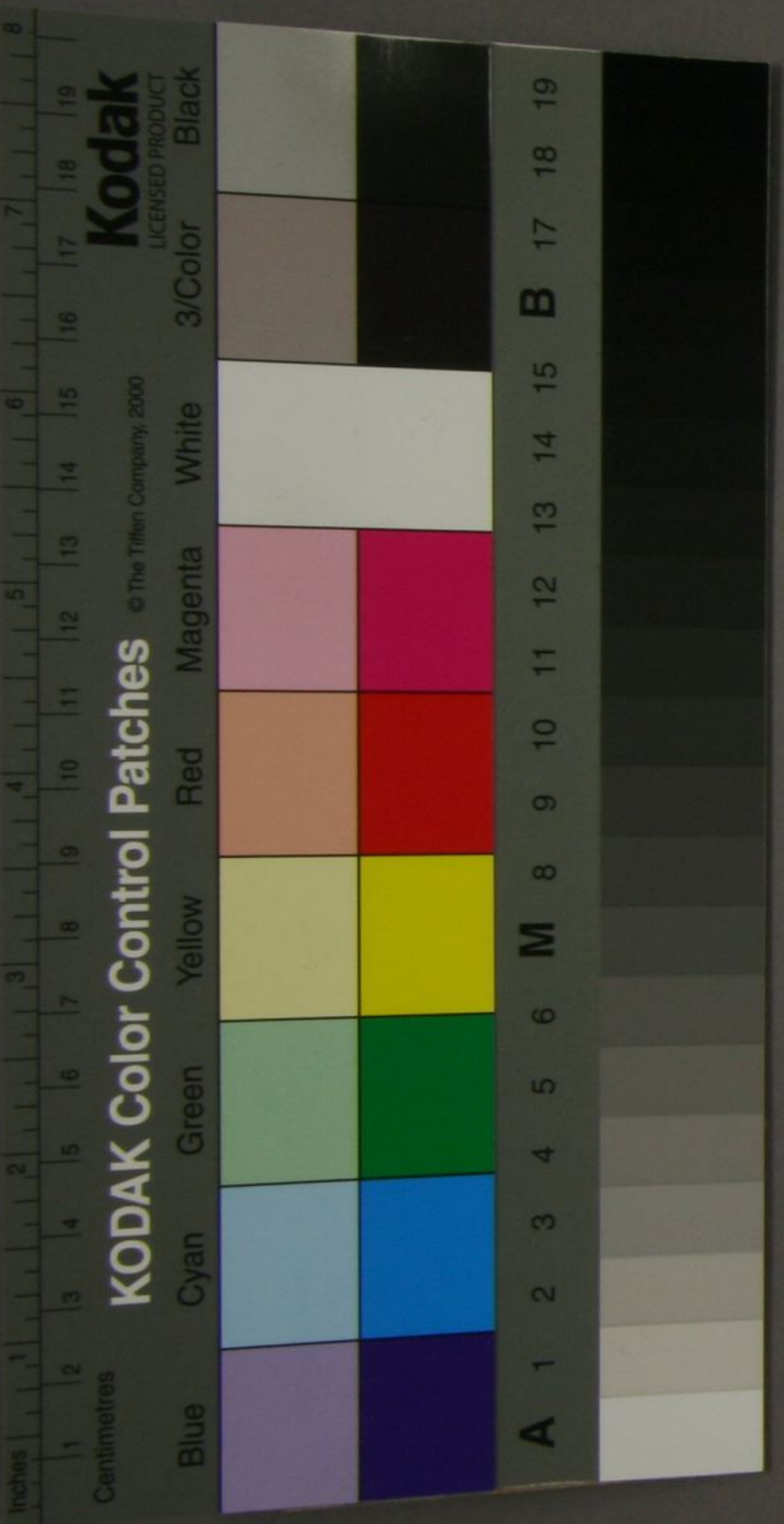
西方 *Bitu camp* *Manoe* 河ロニテ國上 *Tungala*

ト記ス附近ナリ 海岸ハ遠浅サナドモ小蒸汽ヲ用テ處  
ハ六七百米ニ過キス花園口ノ上陸点ニ比スレバ速カニ上等

揚陸ノ為メ使用シタル材料ハ詳カナラズ目數ヲセシム

(香港ヨリ持来セル廣海号ト名ツル近  
海航用外輪船ニテ噸數七八百噸)

大形小蒸汽船 一隻  
中形小蒸汽船 四隻  
舢舨(西洋形ホート) 十五隻 (每隻十人)





外ニ土人船 五隻

詳細追テ取調メ報告ス  
船船輓曳用小蒸汽船ハ直ニ河岸ニ着スルヲ得バク上陸兵ハ  
足ヲ濕スノ患ハ無シ

急造棧橋アリト雖モ粗且ツ狹大ニシテ其用多カラズ揚陸点  
ハ荷物堆積ノ上人車殺横混乱其騒喧甚クシ人員ノ上  
陸ニ早ク令ヲ用テ下無ク荷物ノ種類ヲ區別シテ堆積スト  
雖氏律々錯雜混乱ス

其他一般ノ光景ヲ視ルニ上陸ノ法方ハ頗ル緩慢ニシテ既ニ  
「カヴィ」テニ上陸シアリシ隊モ陸路ニ依ル「ナク」再ビ廣海号  
ヲ以テ對岸ニ移セリ「カヴィ」テヨリ「タムボ」ニ至ル僅ク二十  
四吉羅一日行程ニ過キス然ルニ好ニテ混雜不使ノ海路ヲ取  
ル之レヲ「グリー」ニ少將ニ問ハバ曰ク「氣候暑ク道路泥濘ナリ

我島北方ノ者多クニ恐クハ建康ニ害アリテント

ニ、露營地ハ馬尼刺ヨリ「カヴィ」テニ通スル本道ト海岸トノ間ニ在  
ル畑地ニシテ地形平坦土質細砂ニ僅ク植物ホラ混セル  
者ニシテ疏水良ニト雖モ溝渠ノ設備不充分ニシテ天幕  
内窪々雨水溜マレルヲ見ル

露營地ノ擇定良シ右側ハ河流(徒涉ニ得)ニ依テ掩護  
セラレ左方ハ海軍ノ掩護アリ正面ノ廣カラザルト退却ノ  
困難(後方ハ巾七米長サ五米ノ一橋アルノ)ナルハ欠点

ナレドモ優勢ナラザル馬尼刺ニ對シテハ充分ナラン但シ  
及徒ノ意向一変セバ頗ル危険ナレドモ此患モ殆ニドナシ  
蓋シ馬尼刺「カヴィ」テ間ニ於テハ此地ヲ除クノ外適當  
ノ地点ナシ

三、露營ノ設備ハ未ダ研究セズ目撃所ヲ尤ノ如シ



(1) 第一旅團ヲ先頭トナス第一旅團ノ兵數ヲ概算スルニ五千以上ナリ

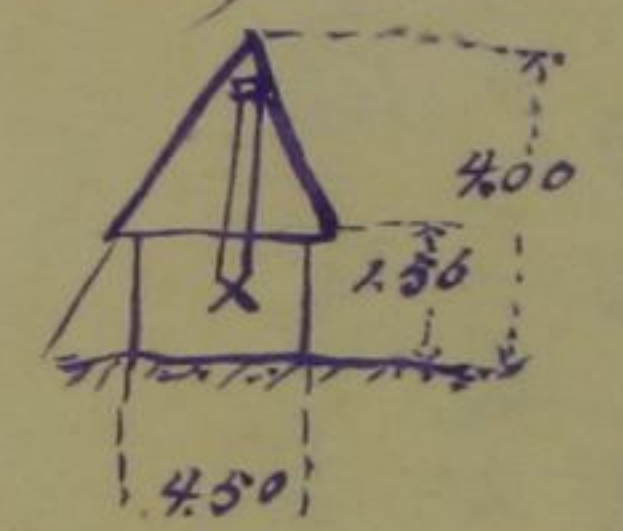
(2) 敵ニ對シテ大ナル顧慮ナシト雖モ「アスト」砲隊ヲ先頭(殆ニト)ニ置キテハ如何ナル理由カ

(3) 團圃ノ位置風上ニ在ル者多シ溝渠(排水用)ノ設置不充クナリ

旅團司令部ヲ除ク他皆天幕内ニ在リ天幕ハ一二小部隊カ円錐形ノ者ヲ用ユルノコトニシテ其他ハ丸テ丸ノ如シ



竹床高サ至少一丈ナラズ



奥行モ亦々4.50ナリ 天幕



軒部天幕更ニ大ニシテ

ハ何レモ新調シタルモノナリ

水ハ雨水井水ヲ併用ス井水ハ多量ノ塩分有機分アリテ甚ク不良ナリ

四 糧食ハ粉類罐詰「ビスケット」塩肉ハ本國ヨリ一部野菜

菜雜穀ハ香港ヨリ生肉又野菜ハ土產ヲ用ユ

五 小銃ニ義勇兵「Spring Field」銃常備兵ハ Krags-

patronen (瑞西製)ヲ用ユ

六 官官之日「ニューポール」ト早ニ至リ總司令官「メリ」ト將軍

ニ謁シ附属旅團ヲ定メ吏シヨリ「カグイ」トニ上陸シ「ア

グ」トニ師團長ニ謁シ次テ「バコ」ト「パラ」ニヤケヲ送テ六

日夕刻「タムボ」着不取敵ヲ一掃旅團各ヲ二旅團ニ附

屬セリ天幕ヲ給セラルモ三人推居不使且ク不建

席アルヲ以テ夜間「限」等記其他亟調ノ爲メ土人ノ



家ヲ借テ宿泊ス者得救至極怒カセシテ三食ヲクリ  
少將及其他ノ糧用附將校ト共ニス食費ハ自辨ノ  
様子ニシテ名將校ホーイニ付金ヲ借ラフル由調査  
材料ニ乞ザレハ示サレズ又馬匹ハ貸與セラレズ説  
明者ヲ附セラレズ

追加

一將校中屢日米英三四同盟ノ東洋ニ於テ必要且ツ  
自然的ナル一ヲ説ク者アリ曰ク陸軍ト軍艦富以三  
者ニシテ結合セラレバ彼ノ嫉妬深キ人民能ク何事  
ヲカ為サズトハ官ニ對スル世辭トモ同コハズ  
ニ米人ニアギナルトヲ稱シテ彼ノコバコルノ馬鹿者ト呼ブ  
然レ尺目下橋ホ辞ヲ低ラシテ飲心ヲ失ハサル一テカム  
ホ人ニアギナルトヲ稱シテ彼ノコバコルノ馬鹿者ト呼ブ

アテニハ迷心的ノ語ニシテ無限ノ勢力ヲ有シテ水火モ之ヲ  
害スル能ハサルノ意

三 アギナルトハ少ク驕傲ノ風ヲ生セリ衣ヲ替テ一日ニ  
二回其妻舞ヲ踊ノ誓昔古ヲ初ム久シケレバ人望地ニ墜ラ  
ズ

四 「サニリー」官ニ語テ曰ク革命軍ハ今ヤ一彈ヲモ容易カ  
ニ射費スルヲ許サズ是レ我が兵彈藥ニ欠乏シテ爲  
メノ此ニ非ズオニ新敵ニ對セシガ爲メナリト  
彼レ又曰ク兵器數千挺ヲ購買セシモ二千挺ヲ輸入シ  
得ズルノレニシテ他ニ米ノ爲メニ押留セラレタリト  
又曰ク米ガ及後ノ企望ヲ容レサル可キ確信ニテ語リナ  
シ然レドモ我々ガ及抗ノ色ヲ表スルハ未ダ早シト  
誠ニ土人ニ向テ米國ヲ若シ呂宋ヲ占領セズ汝等如何



六、脱走土人兵ノ言ニ曰ク西兵犬猫ヲ捕ヘテ食フト  
 五、米馬尼刺攻勢ヲ決心スル者ノ如シ然レモ猶三四日間  
 運動ヲ起サル可シ  
 四、何シガ好キカト及向スル者アリ  
 三、手ト向ヘバ多ク又戦ハニト應フ然レモ中ニ米ト  
 (終)

太正洋派遣隊及第八軍團本營

千八百九十八年八月一日馬尼刺「カウイ」沖ニ於テ

一般命令第一號

一、合衆國軍隊ノ「カウイ」ニ集合セルモノ  
 營地ニ在ル者及ヒ「カウイ」沖運送船中ニ在ル者  
 八自今編制シテ第八軍團ノ第二師團ト爲ス  
 此師團ハ二旅團ヨリ成ル  
 義勇兵少將 *W. Anderson* ヲ師團長ニ任ス  
 二旅團ノ編制ハ左ノ如シ

- 第一旅團
- 司令官 合衆國義勇兵少將 *Arthur MacArthur*
- 合衆國歩兵第三十三聯隊 (二大隊)
- 同 第十四聯隊 (一大隊)



- 第十三 Minnesota 我勇歩兵隊
- 第一 North Dakota 我勇歩兵隊 二大隊
- 第一 Idaho 我勇歩兵隊 二大隊
- 第一 Wyoming 我勇歩兵隊 一大隊
- (3) State 砲隊

第二旅團

- 司令官 合衆國我勇兵少將 J. E. Fernald
- 合衆國歩兵第十八聯隊 (二大隊)
- 全 第三徒歩砲兵聯隊 (一大隊) 四中隊ヨリ成ル
- 全 A 機關砲隊 一中隊
- 第一 California 我勇歩兵隊
- 第一 Colorado 我勇歩兵隊
- 第一 Nebraska 我勇歩兵隊

- 第十 Pennsylvania 我勇歩兵隊
- (4) A 合衆國「ラター」我勇輕砲兵
- (5) B 合衆國「ラター」我勇輕砲兵
- ニ、現今「カヴィテ」在ル第二 Oregon 我勇歩兵隊及ビ  
カリフォルニア 我勇重砲兵分遣隊ハ其ノ地ニ於テ  
從來ノ勤務ニ服シ其報告ニ直接ニ師團長ニ呈  
ス可シ

三、通信分遣隊「カヴィテ」留マリ諸司令部ノ通信  
部ト通信ス可シ

中將 Mearns ノ命ニ依テ  
高級副官 J. B. Babcock 署

備考

一、(1) 第一師命令ハ「サンフランシスコ」ニ於テ發ス第三号命



令ハ未タ出テス

二、ノ符号アルモノハ義勇兵否ラザル者ハ常備兵ナリ  
常備歩兵聯隊ハ三大隊ヨリ成ル故ニ本命令ニ  
記セル以外ノ大隊ハ本國ニ在リト知ル可シ

三、<sup>(2)</sup>「テウエー」ノ野営地トハ米人自ラ「*camp*」ノ露営地  
ニ命名シテ「*camp*」ニシテ元来ノ地名ニハ非ス

四、<sup>(3)</sup>「アストル」ハ其富直家ノ名ニシテ同氏ハ今回ノ役ニ兵器  
糧食其他一切自費ヲ以テ支辨シ之ヲ政府ニ献ジ  
タリ之ヲ「アストル」隊ト名ツク士官及兵卒ハ常備砲  
兵隊ヨリ出ス

五、米軍ノ火炮ハ左ノ如シ

陸揚

(4) A大隊  
合衆國三、二吋野砲  
ポチキース海軍「*howitzer*」砲

一四  
門門

<sup>(6)</sup> B大隊  
「アストル」砲隊

A大隊ニ全シ  
三吋「*howitzer*」砲

一四  
門門門

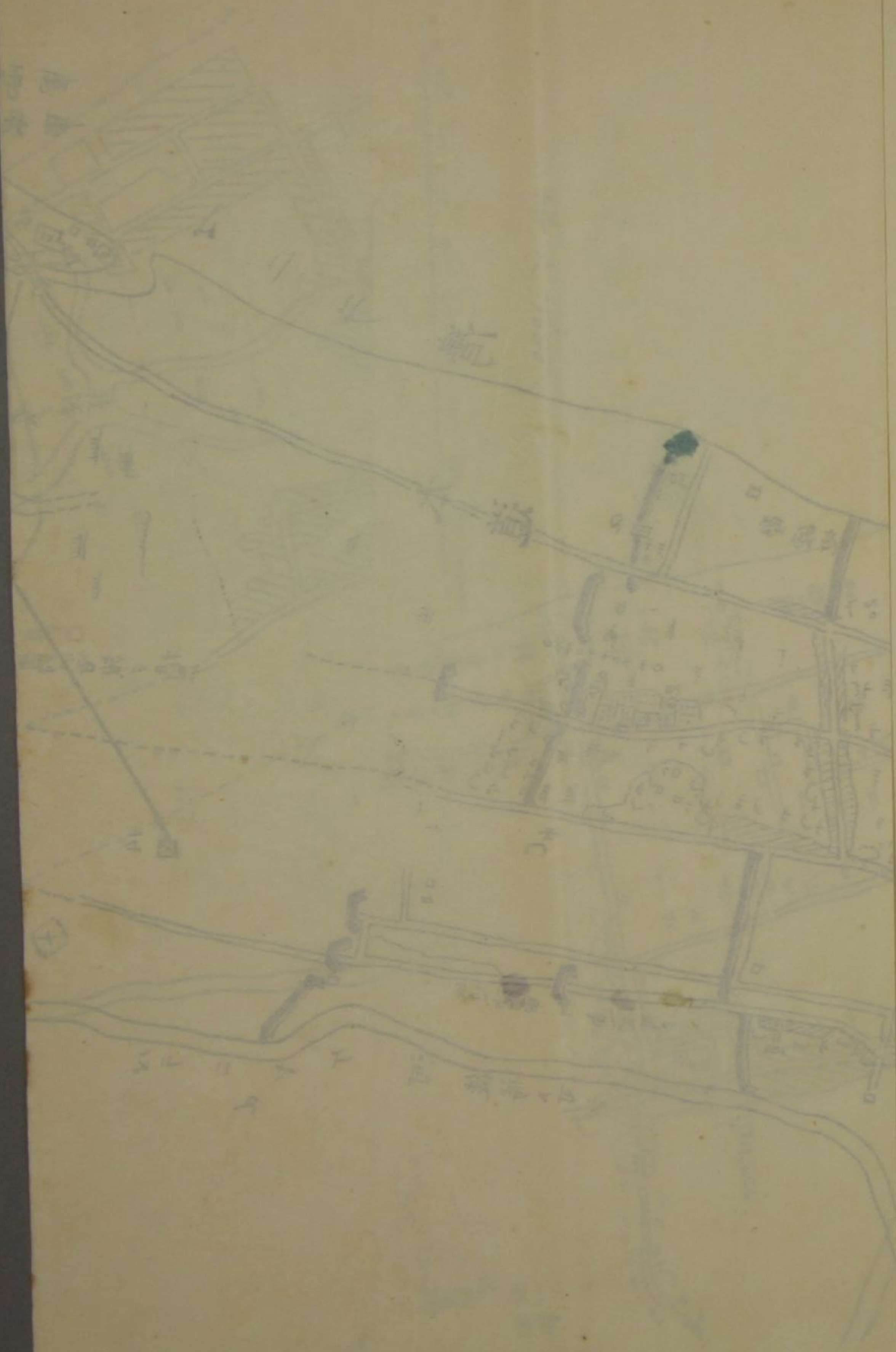
「*howitzer*」砲ニ在ルモノ

二吋「*howitzer*」砲  
一吋「*howitzer*」砲  
外ニ「*howitzer*」砲四門アリ未タ陸揚セズ

一四  
門門

(終)

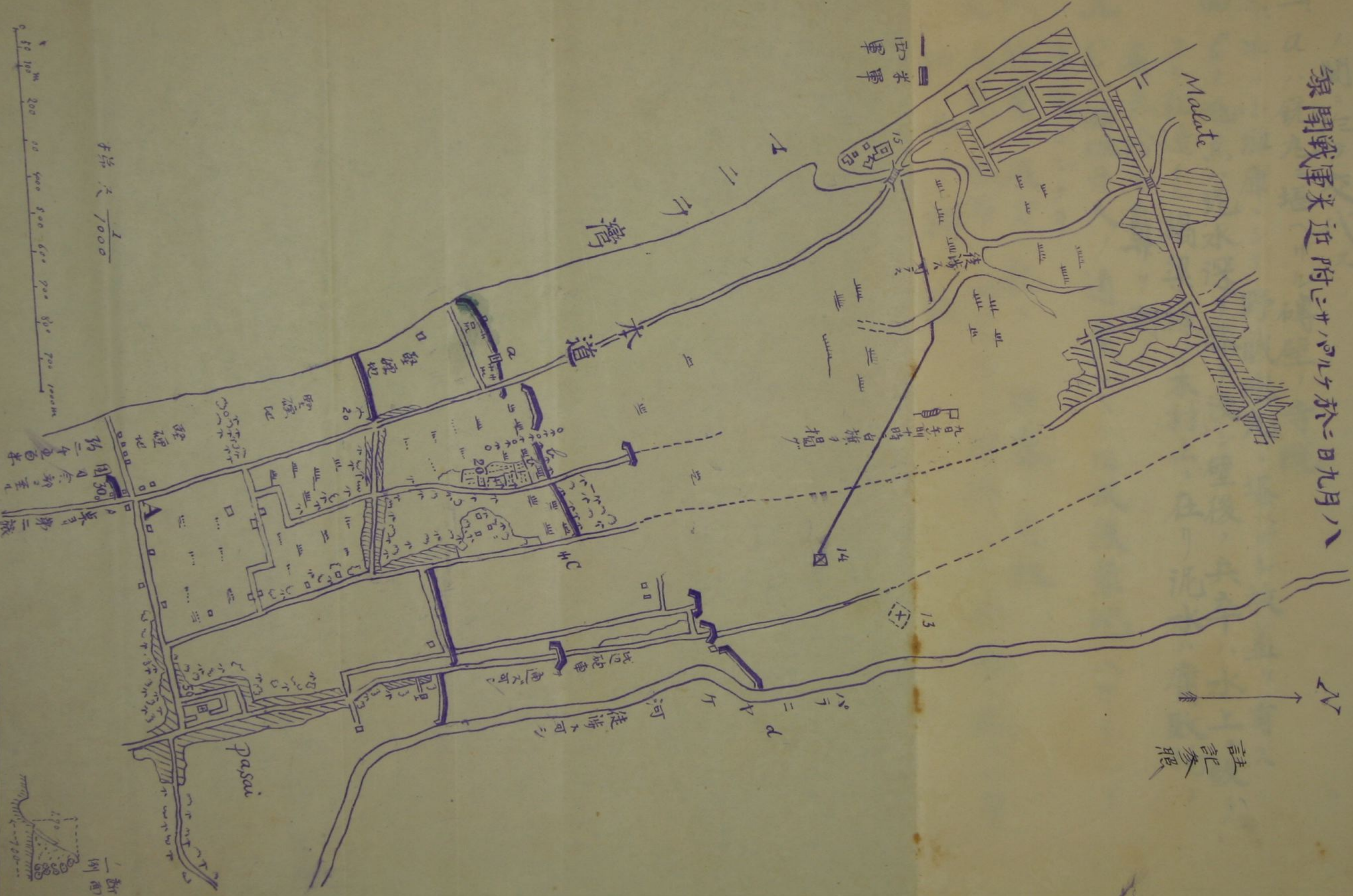
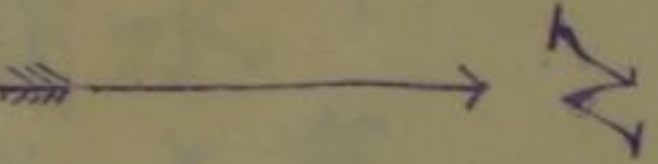






八月初三日於巴拿馬附近米軍戰圍線

註記參照





一、全線通ジテ四大隊中隊(？)一千五六百人毎日午前八時九時  
 ノ間ニ於テ交代ス  
 二、aハ銃丸ニ堪ヘザル磚壁ノ寺院  
 三、mハ小弾庫ニシテ野戰砲丸ニ堪ヘザル被蓋ヲ有ス  
 四、女ノ地点ハ泥水深サ膝ヲ没シ壁後ノ兵卒ハ水上ニ設ケ  
 タル粗造ナル橋梁様ノ木材上ニ在リ泥水ハ腐敗物ノ  
 臭氣紛々鼻ヲ衝ク  
 五、Cハ西班牙人ノ遺棄シタル旧式後裝砲(八斤?)ニシテ  
 應用セルナリ  
 六、隊票ノ後方ニ記セルハ概畧ノ員數  
 七、人員ノ配布ハ全員殆ント壁後ニアリ勤務ニ就ケル者ト  
 扣ヘ兵トヲ辨シ難シ





八、一般ノ地形前後左右共ニ應援頗ル困難ナリ殆ント之ヲ為シ難シ本道及「バサイ」附近ノ道ハ充分野砲ノ

運動ニ堪ユ

九、<sup>「ハラニヤケ」</sup>河ノ点以北ハ及徒之レヲ占領ス

十、<sup>「バサイ」</sup>及徒ト米軍ト難處ス

十一、第一線土工ノ断面ハ脚ノ厚サ約三米高サ一丈七寸

土囊木竹等ヲ以テ不規則ニ被覆ス

十二、第一線被覆電線及ビ二條ノ電話線ヲ以テ旅團司令部ト第一線ヲ連絡ス